

「少しの知識で守れる命」

神奈川県 南足柄市立北足柄小学校 5年 おおの らんまる
大野 藍丸

ぼくは、土しゃくずれという言葉しか知らなかったけど、調べてみると、土石流・がけくずれ・地すべり、これらを合わせて土しゃさい害とよばれていることがわかりました。

日本は、高くてけわしい山が多く、そのため、川というよりたきといってもいいくらい、水の流れが早く強くなります。そして、もともと日本の山の多くはくずれやすい地質でできているため、雨や風でくずれたり、けずり取られた土が下流で積もると、こう水の原因になったりします。

土しゃさい害には前兆があるといえます。土石流では、山鳴りや地鳴り、変なおい、雨がふり続けているのに川の水がへったり急ににごったり木が流れてきたりゴロゴロと音がしたりします。がけくずれでは、がけがひびわれたり水がわきでる、小石がパラパラ落ちる、木がゆれたりかたむいたり根が切れたり変な音がしたりします。地すべりでは、わき水が増えたり、井戸や池の水がにごったり山がゴウゴウと鳴ったり、家がかたむいたり、地面にひびわれやだん差がでたりします。

いつもとちがう様子があるそうです。三つ共通していることは、音かなと思いました。聞こえてくる音から伝わるかすかなしん動にも気付けるかもしれません。山がくずれないように必死にたえているときだと思います。そしてこれが、「早くにげるー」と山が必死にうたえている合図だと思います。

山は、こわいものではありません。山を、こわいものに変えてしまう可のう性をもっているのは人間です。大雨や大雪、地しんは、防げるものではないけれど、土しゃさい害を起こさないように、まきこまれないように、気を付けられるのも人間です。

それでも、さい害はとつ然起きてしまうものです。だれのせいでもなく、起きてしまうものです。変だなと感じたらとにかく逃げるのだと思います。持って行きたいもの、取りにもどりたいもの、いろいろあるかもしれないけど、自分の命を守ることがゆいっつ生きる道です。ときに、逃げることは別れを意味するかもしれません。この、人としてのやさしさが早く逃げることをじゃますることもあるかもしれません。そのためにも日ごろから、大切な家族と話し合い、逃げ方や逃げる場所など決めておくことは、とても大事だと思います。

ぼくの家はすぐうらは山です。うらというよりも、この辺りは山の中に家が建っているといってもいいくらいです。自然に囲まれ静かで、すごく良い所です。ずっとここに住んでいたいから、ぼくも家の周りの様子を知ろうと調べてみたら、家のすぐうらから、土しゃさい害けいかい区いきになっていることがわかりました。一部は、土しゃさい害特別けいかい区いきにもなっていました。山の間からは川も流れています。

そして、ぼくがよく遊びに行く夕日のたきも、土しゃさい害特別けいかい区いきになっていることがわかりました。お母さんはいつも、「少しでも雨がふってきたらすぐに帰るよ。」と言います。ぼくは、「雨くらい、このくらい平気だよ。」と思ったことが何度もあります。でも、今回調べたことで、早めに逃げることはこれから起きることへの予測。そして、まだ小さい妹二人を連れて逃げるための余ゆうをもった時間もふくまれているのだと感じました。今まで、「もっと遊びたいのに何でだよ。」と置いていたけど、「ぼくたちをきけんから守るためなんだ。」と気付きました。

流れに対し直角に少しでも高い所へ逃げる、建物の上の階へ移動する。知っているだけで助かる命があるかもしれません。自分の命も、大切な人の命も守るために、知ることは大切なことだと思いました。知ることは生きることです。知識をもち、情報に耳をかたむけることは、とても重要だと思いました。